

トウモロコシ

グリーンプラザ 営農指導員 小関 和彦

表① トウモロコシの施肥例(10アール当たり)

肥料名	成分	施肥量	備考
元肥			
粒状セルカ	アルカリ分47%	100kg	
マルチサポート2号	総合微量要素	60kg	
苦土重焼燐	0-35-0	40kg	
とうもろこし専用	14-10-10	160kg	基本型
L型ジシアン588	15-8-8	150kg	リン酸・加里の過剰圃場で推奨
追肥			
NKグリーン30	16-0-14	20kg	トンネル除去時
		20kg	雄穂開花初期

※とうもろこし専用とL型ジシアン588はいずれかを選択してください。

施肥設計

作付け前に土壌診断を行い、圃場の状況を確認しましょう。施肥設計は、表①を参考にしてください。リン酸と加里が過剰な場合は、L型ジシアン588を元肥に使いましょう。また、酸性が強い圃場ではpH調整のため、粒状炭酸苦土石灰の散布を

播種時のポイント

お薦めします。増収や品質向上のために堆肥を散布しますが、大量散布や未熟肥の投入は、タネバエの被害を受けやすくなるので、注意しましょう。

発芽には地温と土壌水分の確保が必要となるので、マルチの展開は早めに(播種3日前まで)行いましょう。播種は地温が十分に確保(13℃以上)されてから行います。最適な土壌水分の状態は、土を軽く握って、崩れない程度です。

播種穴は深さ1センチ(人差し指の第一関節)を基準として、土壌水分の状態で調整してください。多湿時はやや浅めに、乾燥時はやや深めに播種します。セルトレイに播種する場合は、トレイの底に直根がしっかり伸びないと生育不良や倒伏の原因となるので注意してください。

トンネル被覆後の管理

播種後、速やかにトンネル被覆し、発芽まで密封します。発

トンネル除去後の管理

追肥は、トンネル除去時に1回目、雄穂開花初期に2回目をを行います。アブラムシ、アワノメイガ、オオタバコガの発生に気を付け、雄穂開花時、絹糸抽出時を中心に定期的に防除を心掛けましょう。



写真③ 霜害を受けたトウモロコシ(葉が褐色に変色)

芽後はトンネル内の温度が35℃以上にならないように換気します。トンネル内の最高気温は30℃を目標にしましょう。新品の被覆資材を使用するときは温度が上がりやすいので、生育に応じて換気穴を増やしていきます。晩霜が予想されるので、換気穴をあける位置は、株の真上にならないように注意してください(写真③)。

「営農情報メール」配信中!

登録無料!!

作柄情報 病虫害対策 青果物概況 イベント案内 など

◆登録は、右のQRコードまたはJA山武郡市のホームページから!(スマートフォンもしくはパソコンのメールアドレスをご登録ください。)

◎JA山武郡市の組合員なら、どなたでも登録できます!!

最新情報をお届けします

1月の分析経過について	
合計3点	
残留農薬分析点数	多成分一斉分析
	葉玉ネギ 1点
	ホウレンソウ 1点 (インショップ)
	リーフレタス 1点 (インショップ)
※残留農薬分析において、基準値を上回る成分は検出されませんでした。	
土壌診断点数 合計83点	

夏ネギ

大網経済センター ネギ専門指導員 内山 晃宏

トンネル栽培の温度管理

トンネル内の最高気温が35℃を超えないように換気を行います。トンネル栽培では被覆後、トンネルの頂点に5〜6センチの直径6センチの穴を開けます。それから徐々に換気穴を増やしていきます。葉焼けを防ぐために、作業は夕方か曇天時に行いましょう。

2条トンネルでは、2月下旬〜3月上旬ごろに側面の支柱の両肩にも換気穴を空けます。3月中旬ごろ(被覆除去の約1週間前)に、側面の換気穴をつなげて、ネギをしっかりと外気温に慣らしましょう(写真①)。

小型トンネルは、葉が天井に当たり始める3月中旬ごろに頭上の解放換気を行います。トンネル除去前の換気が不足していると、軟弱で倒伏しやすい、徒長気味で根張りが悪い、病

トンネル被覆の除去

害虫の発生が多いなど、デメリットが増します。被覆を除去する前に、必ず十分な換気を行ってください。

2条トンネルは3月下旬、1条トンネルは4月上旬に被覆の除去を行います。軟弱に育ったネギは倒伏しやすいので、被覆除去までの十分な換気によって、硬く仕上げた葉が1枚以上展開してから、除去するイメージです。被覆を除去するベッドの本数は、除草、薬剤散布、追肥、土寄せを除去当日に完了できる範囲内にしましょう。

追肥・土寄せ

被覆除去時から、即効性のある追肥(高度化成S842を1回当たり20〜30キ)を施し、倒伏しないよう、土寄せを行います。2回目は14日後を目安とし、その後は太りを見ながら7〜10日ごとに土寄せを行います。位置は首下までです。止め土から収穫までの日数は、5月ど

夏ネギ購入苗の利用について

夏ネギの播種・育苗の時期が秋冬ネギの出荷時期と重なるため、夏ネギの作付けが難しいと考える生産者が多くみられます。夏ネギ導入にあたっての省力化の方法として、購入苗の活用をお薦めします(写真②)。

指定日に定植適期の苗が届くので、育苗管理の手間が省けること、圃場準備が完了していればすぐに定植作業を行えるため作業効率が良いことから、購入者が増えています。

詳しくは、お近くの営農・経済センターにお問い合わせください。

【取扱規格】チェーンポット・2〜3粒播き

【注文締切日】定植の3カ月前まで

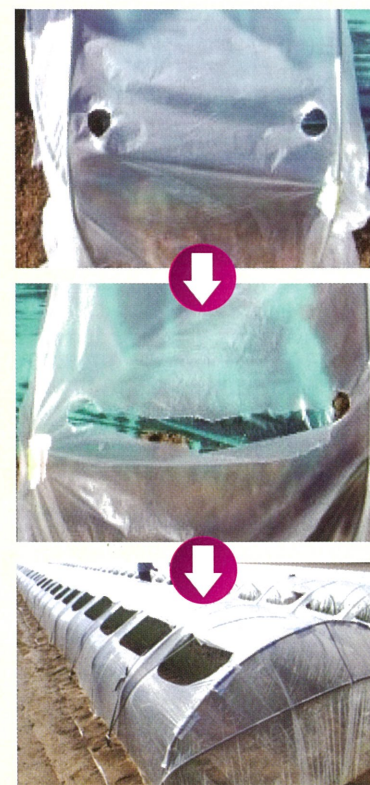
【価格※】約2,200円(税込み)

※変動あり



写真②

夏ネギの苗: 平林物産(株)



写真①

夏ネギ大型トンネルの換気方法

で20〜25日間、6月7月どりで14日〜20日間です。好天に恵まれた場合は生育が進むので、収穫前の試し掘りをお薦めしま

す。夏ネギは、収穫開始から老化が早く進み、病気の被害が多発しますので、適期収穫に努めま